

第12回全国スペシャルトランポリン交流大会

実 施 要 項

- 主 催 : 公益財団法人日本体操協会
共 催 : 熊本県体操協会
主 管 : 熊本県体操協会トランポリン委員会
後 援 : 熊本県教育委員会、熊本県体育協会、熊本市、熊本市教育委員会
熊本県体育協会、熊本日日新聞社
NHK熊本放送局、RKK、TKU、KKT、KAB（予定）
- 協 賛 : 募集中
- 開 催 日 : 2019年3月16日(土)～17日(日)
- 会 場 : 熊本県立総合体育館
〒860-0079 熊本県熊本市西区上熊本1-9-28
TEL : 096-356-1233 FAX : 096-356-1262
- 競 技 : ○競技の部
知的障害者部門・身体障害者部門
小学生、中高生、一般 各男子、女子別
10種目 (Aクラス、Bクラス)
10種目 (SS・Sクラス規定導入)
5種目
○演技発表の部
個人
シンクロ
- 規 則 : 公益財団法人日本体操協会トランポリン競技規則に準じて行う
(一部大会特別ルールを適用する)
- 器 具 : ユーロトランポリン(4mm×4mm テープベッド)
- 参 加 資 格 : 公益財団法人日本体操協会選手登録を済ませた者
療育手帳を交付されているものまたは、財団法人日本体操協会指導者が指
導されている団体で、知的障害、身体障害のあるものが参加できる
参加選手各自または所属団体は傷害保険に加入していること
2019年1月末日までに登録を完了してください
その後、登録が一時ストップします。確認ができない状況になります
- 表 彰 : 各クラスとも全員を表彰する
- 参 加 料 : 競技 3,000円
演技発表 個人 2,500円 シンクロ 1組5,000円
- 宿 泊、お弁当 : 後日、参加申し込みクラブにお知らせします

■ 申込方法

メール sptrampoline07@yahoo.co.jp 余語由美子

添付資料

- ① 参加申込用紙
- ② 総括表（必ず、振込の日付けを記入してください）

■ 競技カード送付先

宛先：〒861-8039 熊本市東区長嶺南 1-5-6
スポーツランド長嶺内
担当:竹寄 宛て
TEL/FAX：096-285-5110
メール：kumamoto.trampoline.a@gmail.com

■ 振込方法

振込期限は、**2019年2月12日(火)**

※取扱日ではなく、口座入金の日付が **2019年2月12日(火)**までです

※期限までにお振込みがない場合は、参加申込が無効となります

※期限以降の変更による大会参加費の返金はいたしません

振込口座（参加費のみ）

銀行名 三菱東京UFJ銀行 支店名 渋谷中央支店
普通口座 0352258
口座名義 ザイ)ニホンタイソウキョウカイ

振込者名

名前の前に「SP19」を付けて下さい。
ご依頼人の欄には、「株式会社」や「特定非営利活動法人 NPO」
「公益一般社団」などは除いてカタカナ 10 文字でチーム名が
わかるように振込してください。

■ 締切り **2019年2月12日(火)**

※期日を過ぎての申込みはできません。日本体操協会主催大会の参加については厳正に行われており例外はありません

■ 登録・競技・振込等に関する問合せ

公益財団法人 日本体操協会 トランポリン委員会 担当 余語由美子
sptrampoline07@yahoo.co.jp

■ 申込送付に関するお問い合わせ

竹寄 kumamoto.trampoline.a@gmail.com

電話でのお問合せはご遠慮ください

スペシャルトランポリン交流大会競技規程

スペシャルトランポリン交流大会競技(発表)部門及び競技内容について

競技部門は知的障害部門、身体障害部門に分け、各クラス男子、女子別で行う。

知的障害部門				身体障害部門			
個人 10 種目	SS クラス		男女別	個人 10 種目	SS クラス		男女別
	S クラス				S クラス		
	A クラス	中高生			A クラス	中高生	
		一般				一般	
	B クラス	小学生			B クラス	小学生	
		中高生				中高生	
一般		一般					
個人5種目			個人5種目	小学生	小学生		
				中高生	中高生		
				一般	一般		
演技発表個人の部							
演技発表シンクロの部							

演技発表部門の内容について

他者と競うものではなく、練習成果を発表する場とする。

1回の発表を行う。その内容を(公財)日本体操協会普及部障害者委員会の審査によりユーモア賞・ダイナミック賞・スマイル賞・ピットリ賞(シンクロの部)を授与する。

個人の部

- ・コーチ・指導者同伴の演技を認める。
- ・マット、縄、フープ、ボール等、トランポリン器具以外の用具利用を認める。
- ・演技内容の紹介は、各クラブ、団体が行う。
- ・発表時間は、コール後90秒以内とする。

※発表内容はトランポリンを使用している内容であれば自由としますが、怪我や危険を伴う内容は認めない。(無理な姿勢での跳躍、台から台への跳び移り...等)

シンクロの部

1回の発表を行う。内容は通常の10種目・5種目。ペアについての制限はなしとし、年齢、クラスが違う場合、その他保護者や、コーチ、指導者等とのペアでも出場できる。個人競技の参加との重複エントリーを可能とする。

競技部門の内容について

競技は、自由演技の試技を2回行う。2回目の試技順は、1回目と同じ順番で行う。順位は2回の試技の演技得点の合計によって最終順位を決定する。ただし、同点の場合には、2回目の試技の演技得点で最終順位を決定する。

演技得点は演技点と難度点の合計とし跳躍時間点は導入しない。

※クラス選択は、選手の怪我や無理がないように、コーチ・指導員が判断してください。

① 個人10種目SSクラス(規定＋自由)

(公財)日本体操協会競技規則を適応し、演技構成に1種目0.6点以上の難度点の宙返りを含む構成とする。但し跳躍時間点は導入しない。

安全を考慮するため、コーチ引率を必ず必要とする。

② 個人10種目Sクラス(規定＋自由)

(公財)日本体操協会競技規則を適応し、演技構成に1種目0.5点以下の難度点の宙返りを含む構成とする。但し跳躍時間点は導入しない。

四つん這い、膝落ち、ターンテーブルは種目として認める。

安全を考慮するため、コーチ引率を必ず必要とする

③ 個人10種目の部

(公財)日本体操協会競技規則に準じ、一部スペシャルトランポリン交流大会特別規則を適応する。(別紙参照)

四つん這い、膝落ち、ターンテーブルは種目として認める。

Aクラスは声かけ、模倣は不可としBクラスは声かけ、模倣は可能とする。

出場区分はAクラス、Bクラスに分かれる。クラス選択については、クラス分けの内容の考え方を基準に A、Bクラスを設ける。共に部門については年齢により一般、中高生、小学生の3部門とする。

④ 個人5種目の部

(公財)日本体操協会競技規則に準じ、一部スペシャルトランポリン交流大会特別規則を適応する。

(別紙参照)部門については年齢により一般、中高生、小学生の3部門とする。

※※スペシャルトランポリン交流大会 クラス分けについてのお願い※※

交流大会により大勢の選手が参加しやすくするために、重度・中度・軽度の選手に対応できるクラスに設定しました。これは、演技などの向上や言葉の理解、コミュニケーションの取り方など選手の努力や成果を各レベルに合わせて評価してあげたいという趣旨です。あくまで、クラス分けをマイナスにとらえるのではなく、各選手の成果や努力を重んじ、尊重する内容をご理解いただきたいと思います。

以下、出場するクラスの基準を参考にしてください。Bクラス及び5種目の部としての参加選手。

- 1、声かけ、模倣がなければ演技が難しい。(種目を覚えるのが困難)
- 2、演技終了時に静止するのが難しい。
- 3、演技の種目の間にストレートジャンプが入らなければ演技が難しい。
- 4、指導者、コーチの誘導なしでは、行動できない。(こだわりがある)

スペシャルトランポリン交流大会(特別規則)

1) 演技途中の跳躍に関わる減点

1-1 演技の途中に、跳躍(技と判断できない)を行った場合、演技内容に含まれる跳躍ごとに0.5点の減点となされる。

跳躍を何本入れても中断にはしない。

2) 跳躍の超過に関わる減点

2-1 10種目以上の演技構成を行った場合、本数にかかわらず1.0点の減点となされる。

3) 最終種目の着地またはその後の安定性の欠如(チェック減点)

3-1 静止(チェック)及びフィニッシュポーズのある場合・・・0.0点

3-2 静止(チェック)及びフィニッシュポーズのいずれかがある場合・・・0.1点

3-3 静止(チェック)及びフィニッシュポーズの両方ともない場合・・・0.2点

3-4 アウトバウンスに関する減点はなしとする。

4) 演技の中断

4-1 片足着地した種目は種目として認めず、演技はこの片足着地をもって中断とする。

4-2 演技途中に立ち止まった場合、演技の連続性がないものとし中断とする。

5) 難度点について

5-1 技の反復は可能とする。但し、難度点には反映されない。

6) 声かけ、模倣について

6-1 声かけ、模倣をする指導者、コーチは補助台の上のまっすぐな所のみとする。

6-2 各方向1名のみとし、最大2名の指導者、コーチを認める。

6-3 台の下、フレームパット、補助台の傾斜のある場所での声かけは認めない。

6-4 台の上に上がった指導者、コーチは必ず直立状態から行う。(安全性の考慮)

7) その他

7-1 フィートバウンス(タック・パイク・ストラドル)は、演技構成に何本入れても良い。

7-2 「膝落ち」、「四つん這い落ち」、「ターンテーブル」は演技種目として認められる。

※側方向軸の技はターンテーブルのみとする。

※「四つん這い→1/2捻り四つん這い」は認めない。

7-3 SS クラス、S クラス以外の部門は宙返り(重心が頭部より上になる種目)は演技構成の中に入れてはいけない。

7-4 跳躍時間点は導入しない。

7-5 移動審判はおかず、演技審が採点する。

得点算出方法

演技点

- ・10種目A・Bの部は10.0満点(10本の技)の演技得点によって採点される。減点は、演技種目ごとに減点される。(1種目0.0~0.5の範囲の減点)
- ・10種目SS・Sの部は10.0満点(10本の技)の規定+自由演技得点によって採点される。減点は、演技種目ごとに減点される。(1種目0.0~0.5の範囲の減点)
- ・5種目の部は5.0満点(5本の技)の演技得点によって採点される。減点は、演技種目ごとに減点される(1種目0.0~0.5の範囲の減点)が、最終得点は、5種目の演技点の合計に5.0点を加算し、演技点とする。なお、有効本数や追加減点により減点する点数が5.0以上あった場合や有効本数0本の場合でも5.0点以下にはならない。(最低点を5点とする。

例) 5種目の部の場合

$$3.0\text{点}(5\text{種目の演技点}) + 5.0\text{点}(加算) = 8.0\text{点}$$

難度点

・例) 難易度

1、フルシート ドロップ	0.2
2、スイブル ヒップス	0.1
3、ハーフスタンド	0.1
4、ストラドル ジャンプ	0.0
5、ハーフピルエット	0.1
6、シート ドロップ	0.0
7、フロント ドロップ	0.1
8、スタンド	0.1
9、タック ジャンプ	0.0
10、フルピルエット	0.2

演技得点

1審	2審	3審	演技点合計	難度審	演技得点
8.0	8.1	8.1	24.2	0.9	24.2+0.9=25.1点

個人10種目SS規定

個人10種目Sクラス規定

1	タックバック	背落ち	
2	シート	バックオーバー	
3	ハーフスタンド	シート	
4	タックバウンス	ハーフスタンド	
5	フロント	ハーフピルエット	
6	シート	パイク	
7	スタンド	ハーフフロント	
8	パイクバウンス	スタンド	
9	ストラドル	ストラドルバウンス	
10	バラニー	タック前宙	